

会場 A (文科系総合講義棟 2 階法学部第二講義室)

第一日目 6 月 1 日 (土)

【分科会 1】 9 時 30 分—11 時 55 分

非西欧諸国から／への人の移動と市民社会の越境的動態

趣旨説明 代表：上杉妙子

コメンテーター：田辺明生

越境的市民社会としての在独イスラーム諸団体

A1 石川真作

国境を越えるコーポラティズム—在外ネパール人協会(Non-Resident Nepali Association)とネパール

A2 上杉妙子

多様な文化的背景を持つアソシエーションにおける意思決定の方法—在日ベトナム人支援を目的とするアソシエーションを事例に

A3 野上恵美

東アジア諸社会に越境市民社会は形成されうるのか？

A4 岡田浩樹

投擲的な相互支援を組織する—香港・中国南部の東アフリカ系住民による組合活動を事例に

A5 小川さやか

.....

【個人発表】 12 時 35 分—15 時 00 分

土砂崩れとぬかるみ—ヒマラヤ山間部を運転することについての試論

A6 古川不可知

行動を保留するリゾートづくり—風景は文化の反映か

A7 片桐尉晶(保昭)

研究—開発—保全の統合的発展は可能か？—コンゴ民主共和国における水上輸送プロジェクトの実践

A8 松浦直毅／山口亮太

アボリジニの酒の分配—中央オーストラリアの事例から

A9 平野智佳子

ネットワークの陥穽と憂鬱—ネパール大震災後のプロテスタントによる復興活動を事例として

A10 丹羽充

ソーシャル・メディア活用にみる倫理的価値創造—東北タイ芸能集団の保証システムの事例から

A11 平田晶子

会場 B (文科系総合講義棟 2 階法学部第一講義室)

第一日目 6 月 1 日 (土)

【分科会 2】 9 時 30 分—11 時 55 分

言語人類学とエスノグラフィーコミュニケーションから文化を記述する

趣旨説明 代表：梶丸岳

コメンテーター：名和克郎

環境に連結したジェスチャーと指示詞—グイ/ガナの道探索実践の事例から

B1 高田明

場の個別性と一般性をつなぐ掛け合い歌の技法—ラオスの掛け合い歌カップ・サムヌアを事例に

B2 梶丸岳

図／地の反転と指標的類像—メラネシア民族誌におけるヤコブソン詩学の所在

B3 浅井優一

学級におけるジェンダー・言語・身体を巡る権力交渉の分析：シフトする場と文脈の概念を用いて

B4 宮崎あゆみ

キリスト教化とローカリティの連続性/不連続性：アマゾニア民族学と言語人類学の接合にむけて

B5 金子亜美

.....

【個人発表】 12 時 35 分—14 時 35 分

スキルからアートへ—国際芸術祭で「狩り」をする人類学者

B6 竹川大介

夢のアッサンブラージュ—パプアニューギニアにおけるギターバンド歌謡の技法をめぐって

B7 諏訪淳一郎

オドリをさがす人々—舞踊ワークショップと民俗芸能におけるサードプレイスと身体

B8 グリゴレ・イリナ・フロレンティナ

暗黒舞踏のアフェクト—踊りを伝達する際の間身体的な働きかけ

B9 ケイトリン・コーカー

描かれた動物が紡ぐもの—カナダ・内陸トリングットの装飾品”レガリア”の分析から

B10 山口未花子

.....

【第 14 回人類学関連学会協議会（CARA）合同シンポジウム】

15 時 05 分ー17 時 30 分

社会と対話・協働する人類学ーその可能性と役割

趣旨説明：亀井伸孝（日本文化人類学会）

レジデント型研究と民俗学ー鳥海山・飛島ジオパークの活動を例として

岸本誠司（日本民俗学会）

サルは地域に必要なか？ー農村社会との対話から見出す「研究」と「実践」を結ぶ新しい役割と可能性

鈴木克哉（日本霊長類学会）

ヒトの理解に基づくモノづくり

岡田明（日本生理人類学会）

中等教育と文化人類学の接点ーこれまでとこれから

濱雄亮（日本文化人類学会）

高等学校の現場での近年の「人類」の扱いについての変遷と今後の展望

市石博（日本人類学会）

会場 C (文科系総合講義棟 2 階経済学部第一講義室)

第一日目 6 月 1 日 (土)

【分科会 3】 9 時 30 分—11 時 55 分

生涯研究の文脈における「老年学」の課題

趣旨説明 代表：内堀基光

住むことと老いること—フィンランドにおける住宅、親子関係、ケア

C1 高橋絵里香

家族に介入する社会/社会に介入される家族—沖縄の小規模多機能型居宅介護事業の展開を事例に

C2 加賀谷真梨

狩猟採集集団の定住化による人口構造とケアシステムの変容に関する分析—マレーシア半島部オラン・アスリ定住村落における人口人類学的研究

C3 小谷真吾

狩猟採集民バテツの社会におけるエイジング—呼称と「老い」にかんする語の使用に着目して

C4 河合文

イバン集住空間に見る命の消長

C5 内堀基光

.....

【個人発表】 12 時 35 分—15 時 00 分

変化する人間と鯨の関係—アラスカ先住民イヌピアットの事例を中心に

C6 岸上伸啓

内陸アラスカにおける漁撈・管理史と現代的課題—科学人類学と狩猟採集民研究のはざま

で

C7 近藤祉秋

アマゾン植民のポリティカル・エコロジー—「人新世」的状況に関する民族誌的記述／分析の試み

C8 後藤健志

再処理工場と原発のある海辺の生活と人類学の方法論—ノルマンディのラ・アーグと福島

の富岡で考える

C9 内山田康

原油を地中に留めること—エクアドルの「ヤスニ ITT イニシアティヴ」と人類学のスケー

リング

C10 大杉高司

「沈む島」と「育つ岩」—ソロモン諸島マライタ島北部のラウ／アシにおけるサンゴ礁居住の動態

C11 里見龍樹

会場 D (文科系総合講義棟 2 階経済学部第二講義室)

第一日目 6 月 1 日 (土)

【分科会 4】 9 時 30 分—11 時 55 分

文化と身体の交差点としての食—文化固有性・産業化・異業種ネットワーク

趣旨説明 代表：風戸真理

コメンテーター：田中雅一／河野正治

贈与と協働の献立—近世・近代日本の饗応儀礼食の記録分析

D1 山口睦

モンゴル国における地方都市の乳文化—乳製品市場での販売と利用を中心に

D2 寺尾萌

私の作った野菜は、どこの誰が食べているのか—北海道における生産者と食べる人の交流の現場から

D3 井上淳生

エスニックツーリズムと民族料理—中国内モンゴル自治区中部の事例より

D4 尾崎孝宏

食文化にみる標準性・地域性・身体性—モンゴル国の食事と饗応より

D5 風戸真理

.....

【個人発表】 12 時 35 分—15 時 00 分

非経験者による日系人強制収容の記憶継承—サンノゼ日系アメリカ人博物館を事例に

D6 松永千紗

トランスパシフィックにおける「つながり」の芸術—ジーン・シンと井上葉子の作品から

D7 竹沢泰子

ヤップ離島自由連合移民のアイデンティティ戦略と葬送の戦術

D8 柄木田康之

Materiality and (Non-) transnationality: Russian-speaking Migrants in Japan Along their Life Course

D9 Ksenia Golovina

大相撲における力士の身体的実践

D10 松山啓

北西インドに暮らす移動民ジョーギーの「定住化」後の居住様式に関する考察

D11 中野歩美

会場 E (文科系総合講義棟 2 階法学部第一小会議室)

第一日目 6 月 1 日 (土)

【分科会 5】 9 時 30 分—11 時 55 分

食をめぐる宗教的規制の制度化と実践—ハラールとコシエル

趣旨説明 代表：山口裕子

コメンテーター：富沢寿勇

ハラールとハラーム—認証制度誕生前後の日本とイスラーム

E1 山口裕子

幻想のハラール—ハラール認証制度が日本の非ムスリムや在住ムスリムに与える影響

E2 阿良田麻里子

ムスリム職業屠畜人のイスラーム的实践—オーストラリアの食肉工場での観察から

E3 高見要

清真の精神は誠信—台湾におけるハラール認証制度の展開とムスリムの食選択

E4 砂井紫里

コシエル食産業とユダヤ文化—イスラエルの事例を中心に

E5 細田和江

.....

【個人発表】 12 時 35 分—15 時 00 分

アフリカ諸国の独立 60 周年に向けて—ガーナの独立記念式典の変容過程の事例を中心として

E6 阿久津昌三

隣国が支えるナショナリズム—タイ＝ミャンマーをまたぐシャン人の言説空間を支えるもの

E7 岡野英之

部分的アナキズム—フランスのモンの事例から

E8 中川理

沖縄の米軍軍用地内での黙認耕作—基地の受容/反対を超えて

E9 福田真郷

関係修復と物語実践—認知的共感とラディカル・オーラル・ヒストリーを中心とした考察

E10 大津留香織

人権ディスコースとアート—暴力の記録、記憶、『証言』と表現

E11 細谷広美

会場 F (中講義棟法学部第三講義室)

第一日目 6 月 1 日 (土)

【分科会 6】 9 時 30 分—11 時 55 分

コミュニティ(地域)による看取りの力

趣旨説明 代表：浮ヶ谷幸代

コメンテーター：佐藤正章／福井栄二郎

地元投じる一石としての「あんしんノート」ーニッ井ふくし会による在宅での看取りの事例集は地元になにをもたらすか？

F1 相澤出

「小さな移住」と「大きな移住」ー日本版 CCRC と UR 団地小規模多機能ホームとの比較から

F2 浮ヶ谷幸代

カナダ先住民サーニッチが居留地で看取ることー地域の看取りとしてのカナダ先住民居留地

F3 渥美一弥

看取りから葬送へのコミュニティは形成されるのか？ー無縁化への予防と自己決定をめぐる実践を通して

F4 山田慎也

地域包括ケアシステム(保健・医療・福祉)への「住民参加」ーシステムにおける「互助」の問題

F5 松繁卓哉

.....

【個人発表】 12 時 35 分—15 時 00 分

清明節の儀礼の実践から見た人と人の繋がり方ー中国四川省成都市郊外の S 村 X 宗族を事例に

F6 星野麗子

夕暮れにきた客ー沖縄本島北部における旧盆行事の現在

F7 吉田佳世

喪輿(サンヨ)が橋渡しするものー韓国の葬儀の変化の重層性

F8 金セッピョル

地方分権化と民主的選挙が生み出す「ビッグマン」ー東部スマトラに暮らすアキットの共同体における村落長選挙の事例を通して

F9 大澤隆将

神聖王のポリティクスー西部カリマンタンのウルアイ王権の事例から

F10 西島薫

貨幣経済化の潮流のなかの社会性ーインドネシア・フローレス島中央山岳部における絣織の社会的生に焦点をあてて

F11 青木恵理子

会場 G (中講義棟文学部第一講義室)

第一日目 6 月 1 日 (土)

【分科会 7】 9 時 30 分—11 時 55 分

中央アジアにおける牧畜社会の歴史生態学的展開

趣旨説明 代表：今村薫

コメンテーター：地田徹朗

カザフドライステップにおける餌資源の季節変化と家畜の行動パターンの衛星追跡

G1 星野仏方

ラクダの去勢—内モンゴル自治区アラシャー盟のラクダ牧畜民の事例から

G2 ソロンガ

カザフ草原北辺部における長距離交易と家畜の取引

G3 塩谷哲史

中央アジア初期農耕牧畜民の環境と文化集団—キルギス、天山山脈とウズベキスタン、フェルガナ盆地での最近の発掘調査からの新視点

G4 久米正吾

ユーラシアにおける東西交流—DNA とゲノムからさぐる

G5 斎藤成也

.....

【個人発表】 12 時 35 分—15 時 00 分

情報の共有と実践に関する文化人類学的研究試論—高知県下の「犬神」と「予感」を事例として

G6 酒井貴広

民俗宗教をめぐる自律性—中国広東省東部の村落における事例から

G7 横田浩一

移住とアウェプラの慣行—中国南部のトン族社会における建前と本音

G8 黄潔

現代中国における宗教と世俗の調整と再構築—中国広東省梅州市「香花派」におけるスティグマ現象の事例から

G9 ケイ光大

チベット・アムド地域における仏教、ボン教、道教などの混交的宗教実践—中国青海省海南チベット族自治州貴南県砂溝郷ボンコル村の事例を中心に

G10 拉加本

伝統文化の視点から見るチベット族の牛糞利用—ラサ周辺のウ・ツァンチベット族と青海省アムドチベット族の事例から

G11 張平平



会場 H (中講義棟文学部第二講義室)

第一日目 6 月 1 日 (土)

【個人発表】 9 時 30 分—11 時 55 分

フィールドとともにできること—エチオピアにおける産学・文理連携の地下足袋協創研究をめぐって

H1 田中利和

学的実践としての「エスノグラフィック・アーティファクト」の検討—まちづくりプロジェクトにおける人類学者の「発明品」を対象として

H2 早川公

(発表辞退)

H3

つながりの「結びなおし」としての災害復興—受け入れ地域住民の“揺れる感情”に注目して—

H4 山崎真帆

紐帯の強化、紐帯の断絶—外部からの被災地復興支援のあり方をめぐって

H5 李仁子／金谷美和

文化人類学と生きる—仕事で、家庭で、人生で

H6 川口幸大／齊藤友紀／伊藤真実

.....

【個人発表】 12 時 35 分—15 時 00 分

現代インドにおける異宗教間夫婦の「つながり」をめぐる日常的な奮闘—マハーラーシュトラ州における家族との断絶と交渉に着目して

H7 鶴田星子

ネパールにおける「衛生」「健康」言説の生成と肉食文化の展開—肉売りカースト・カドギによる起業を中心に

H8 中川加奈子

ネパール・ゴルカ地震への対応にみる重層的ローカリティ—カトマンドゥ盆地の事例から

H9 伊東さなえ

誰かが私の「話をする」—ネパール、グルン村落におけるゴシップと「反—排除」の倫理

H10 吉元菜々子

研究記録と文化伝承のための協働について—「早川昇ノート」の解説と出版に伴う関係地域との交渉を通じて

H11 百瀬響

ライフストーリー展示の可能性—現代アイヌ文化展示の一試案から

H12 吉本裕子

会場Ⅰ（中講義棟経済学部第三講義室）

第一日目 6月12日（土）

【個人発表】 9時30分—11時55分

鳥貝につける苗族刺繍の技法、紋様、色の整理—中国貴州省黔东南州雷山县西江鎮の鳥貝を中心として

I1 楊梅竹

髪で美しさを表し、櫛で美しさを装う—中国貴州省施洞鎮苗族「櫛」の社会的意義とその変容

I2 郭睿麒

大林太良の物質文化研究—隣接諸学問の関係再考に向けて

I3 角南聡一郎

アイヌ文化と観光土産—展示実践がもたらす多様な再文脈化

I4 山崎幸治

魔除けの多様性と外来要素の吸収・受容

I5 土谷輪

複合的なモノとしての自動車と「交渉」する—ガーナ都市部の自動車修理工による修理実践の事例から

I6 三津島一樹

.....

【個人発表】 12時35分—15時00分

情報行動におけるメディア選択—モンゴル遊牧民の携帯電話利用を事例に

I7 堀田あゆみ

現代パキスタンにおけるパルダの機能—都市高学歴女性の語りを通して

I8 賀川恵理香

社会主義を経験したハラール産業の栄枯盛衰—現代中国における伝統知の継承と断絶

I9 澤井允生

東南アジア・南アジア民族誌における粥調理

I10 小林正史

ドイツにおける日本食の現代的な変容—スーパーで販売されるすしを事例として

I11 陳珏勲

オーストラリア北西部の町ブルームにおける日本人移民と食をめぐって—ディアスポラの経験と場の生成

I12 山内由理子